

第3回 小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 平成25年1月29日（火）午後6時30分～午後8時38分
- 開催場所 小平市立中央公民館 講座室1
- 出席者 椎名委員、山田委員、早田委員、宮崎委員、船津委員、河合委員
菊池委員、千葉委員、前田委員、宮村委員、山口委員（順不同）
- 傍聴人 なし
- 議題 第13期の検討課題について
- 配付資料 （1）第3回緑化推進委員会 次第
（2）緑化推進委員会について（案）

会議要旨

委員長

最初に、委員が作成した資料の「緑化推進委員会について（案）」を、説明してください。

委員

第13期の検討課題として、小平を他地域にない観点から特徴づけるもの、市民に郷土意識を啓発できるもの及び子どもに知的投資できるものにしたい。そのうえで、小平市では、水がエネルギー源であったことから、水車の具現化を課題にしてはどうか。具体的には、安価にでき、取り外しができる小型の水車を子どもに製作させてはどうか。また、水車コンクールを開催してはどうか。

委員

小平市の放課後子ども教室で子どもたちに簡単な水車を製作させてはどうか。

また、水車に関する紙芝居を公民館で活動しているサークルと製作し、各学校にいる読み聞かせグループに提供すれば、子どもの知的投資になる。

委員長

緑化推進委員会の委員にも個人的に水車の製作を行っている人もいる。水車の製作について説明してください。

委員

製作した水車で単4電池3本のLED電球を光らせることができた。また、ニッケル・カドミウム蓄電池に充電すれば、足元灯になると思う。これをあかり祭りで、お披露目したいと考えている。

委員長

今後、夏に水車祭りを開催して、イルミネーションで飾った水車を設置してはどうか。

委員

イルミネーションならば、クリスマスに点灯するとより楽しめると思う。

委員

現在、水車の跡地は空き地か。

事務局

現在は、民有地である。ただ、水車通りの由来ですので、将来的に残していきたいと考えている。市が使用できるようになれば、水車があったことを啓発し、水車イベントの中心地とするのも良いのではないかと考えている。

委員

水車を回すには、水量が必要になる。なぜ、部分的に、水の流れが少ない箇所があるのか。

事務局

理由ははっきりしないが、水量が少ないため、土に吸収されたり、蒸発したりして下流域に水が流れないのだと思う。

委員長

市民から見えない部分では、コルゲートパイプに水を流して、下流まで水が流れるようにしてみるのもいいと思うが、景観のこともある。いろいろ検証が必要である。

ところで、水車のために、堰を設置しても良いのか。

事務局

検討しても良いが、落葉の季節には詰って水が溢れるので、何か方策を考える必要がある。

委員

落葉のことを考えて、現在製作した水車は持ち運べるようにした。

委員長

持ち運びが可能ならば、水車を設置する仕組みを作っておいて、誰でも水車の製作ができるようにするのはどうか。

委員

このように具体的に水車の製作をしながら、様々な提案をしていくことが良いのではないか。

事務局

市は、市民からご発案をいただき、それをサポートすることが良いことだと考えている。

委員

水車の復元については、すでに第12期で提言しているのではないのか。

委員長

水車に関しては文書による提言を第12期で行った。次の段階として、緑化推進委員会で事業化していく必要もあると考えている。

委員

過去の提言を読み返すと、実現できていない原因の共通点は、人と関わる提言である。それは、人の集まりの核がないから実現できていないので、人の集まりの核ができれば、そこを中心に、提言を実現していくことも良いのではないのか。

委員長

第12期ではコモンズということを提言している。緑化推進委員会は、コモンズという考えで動いている人を育てていき、小さなことから実証して、第13期の提言にしていけるかどうか。

委員

今後は、どういう組織が必要かということも話し合う必要もある。

委員長

では、水車以外で委員会のテーマはあるか。

委員

現在の名木百選についての進捗状況はどうか。

事務局

現在2・3件募集があり、これから名木百選選定委員会にて決定していく段階である。

委員

農地や緑地が減ってきているので、公益法人を設立してそこに農地や緑地を寄附して保全していくのが良いのではないのか。

委員

農地や緑地を市が管理しているのであれば、法人化する必要はないと思う。

委員

小平市を、東西には多摩湖線で、南北には青梅街道で分け、4分割にしてグリーンロード、玉川上水、野火止用水を中心にそれぞれの区域で施策を考え、小平全体に緑を残すようにしていく必要がある。

委員長

それぞれの区域の具体的な施策を緑化推進委員会で考えていくのも良いと思う。
では、他にテーマはあるか。

委員

森は、昔は経済林としての役割があったが、現在は学習の場所としての役割を持たせる必要がある。

委員

防災イベントに、伐採・剪定した樹木を薪にして提供すれば、芽生え、育成、伐採という樹木のサイクルをアピールできるのではないか。

委員長

防災のため、一時避難場所が市内に何カ所あり、各避難場所の避難人数を調査し、一週間避難するにはどのくらいの薪が必要かを考える必要がある。

委員

薪を学校にも置いてはどうか。

委員

学校の防災倉庫では、薪がしけってしまうので、薪小屋を建てて保管したほうが良い。

委員長

薪小屋だと、市民が薪の存在を認識でき、非常時に役立てることができる。

委員

薪があるだけでは、災害に対処できないので、薪に火をつける方法を教えることも必要である。

以上